

# 冬ごめ便り

221号

冬版

2017年(平成29年)  
1月29日発行編集・印刷：  
馬込便り編集グループ

&lt;題字 故黒田浩子姉&gt;

## 『**疲**れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。

休ませてあげよう』(マタイ 11:28) 司祭 フランシス 下条 裕章 しもじょう ひろあき

たぶん、神学院の新約聖書の授業の時のことだったと思います。もしかしたら休み時間の会話のなかであったかもしれません。速水敏彦先生から『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう』という聖書の言葉からあなたはどんな情景を描くことができますか。休むとはどんなことですか」というように尋ねられたことがありました。教会の看板などにもよく書いてあって、見聞きしていた言葉でしたが、(なんとなく胡散臭いイメージと重なっていたりして)特に何かのイメージを思い描くことはありませんでした。

休むと言えば、このところ寝不足だから、ベッドに横になるのがいいかな、いややっぱり温泉につかってうつつらうつつらするのいいかななどと思いつめぐらして、言葉にできないでいると、先生は微笑みながら「ドイツ語の聖書では、この休むのところを、元気づけるというような言葉に訳してあるのだよ。聖書を学ぶ前は、この休むという言葉から、横になる、眠るといったイメージを連想していたように思うけれど、それとはずいぶん違うでしょ。この言葉をどう理解するかで、『救い』についてのイメージが随分違ってくると思うよ。」と教えてくださいました。

確かに、これに続く言葉は「目を閉じて、ゆっくり眠りなさい」ではなく「わたしのくびきを負い…」と続きます。そして、クリスマスに向けての希望のメッセージは「目を覚ませ」です。復活日のメッセージは「再び立ち上がれ」です。そして聖霊降臨日には、旧約聖書の出エジプトのモーセと同じく、「出かけてゆきなさい」でしょう

か。病人は立ち上がり、死者は目を覚ます。そして新しく人生を歩みはじめます。それが救いの出来事として繰り返し描かれています。聖書の描く救いは、励まし立ち上がらせるところにあるようです。

わたしたちは、神さまのそんな励ましの中に生かされています。そして、わたしたちの教会は、疲れ果て、重荷を負って生きる人を元気づけるために建てられているのです。どんなことができるのか、どんな祈りをささげることができるか。これからも、ぜひ一緒にチャレンジしてゆきたいと思います。

そしてもう一つ、大切にしたいことはユーモア・笑顔です。はじめに選んで取り上げた言葉の前には、「そのとき、イエスはこう言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある

者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これはみ心にかなうことでした。』(マタイ 11:25, 26)とあります。人は年を経て大人になるほど無表情になり、笑う回数が減ってゆくのだそうです。子どもとは、しばしば笑っている人たちのことということもできるかもしれません。また「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ 12:15)と叫ばれて、その準備ができている人たちと言ってもよいでしょう。こうした共感する心のなかに、実にユーモアも潜んでいるのです。

おわりに、この聖句を見聞きするたびに思い浮かべる歌を紹介しておきます。神学院のある先輩がときおり歌っていた歌でもあります。

&lt;3ページへ&gt;



日本聖公会 大森聖アグネス教会 東京教区

牧師 司祭 フランシス 下条 裕章 (しもじょう ひろあき)

〒143-0025 東京都大田区南馬込1-58-8

Tel&amp;Fax : 03-3771-3459

e-mail : st.agnes.omori@gmail.com

ホームページ : www.nsk.org/tokyo/church/oomori/

<巻頭言より>

『疲れた靴』 高石ともや

1. 君は長い道のりを歩いてきた、つらい言葉を浴びせられて  
泥にまみれて足も重い、でも罵る者は皆背中を向ける

※ (くりかえし) 疲れた靴を脱いで休んでゆかないか

笑い話をしてあげようか

君の瞳は輝いている、憧れと夜明けを

求めながら

2. 少女の笑顔に君は笑う、微笑みの輪が広がるように  
人々の声も沸き起こり、錆びた扉は崩れ始めた

※ (くりかえし)

3. 自由の行列は町を進む、囚われの輪も崩れ始めた

そうさ君の歌は消えはしない、君はまた虹を追って旅にでる

※ (くりかえし)